（本紙廣告欄）　（東京）　明治廿五年三月廿九日　（定價金二錢）
明治三十年五月十日　遞信省認可

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

第三千三百二號
明治廿五年三月廿九日　火曜日
（庚申）
寫歷壬辰三月二日
日出午前五時三十三分
入午後五時十九分
月出午前六時二分
入午後六時五十分
潮午前五時四十七分
潮午後六時七分
（西暦一千八百九十二年）

時事新報定價
時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月賦休刊
〇時事新報社より直接に遞送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢の遞送料ヲ申受ク
時事新報廣告料（前金）

一行五種活字共四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行	付十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付
東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を壇塞するより各社同一の記事を掲ぐるのみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生ずる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

炭礦鐵道會社々長

の免職は誠に突然のみとにして世間の耳目を驚かしたり官撰の社長なれば其筋の意見次第にて之を任免するは固より當然のみとおれども左るにても一大會社の社長その身分柄きに非ず又その會社に對しては利にも害にも關係の大なるものなれば之を免職するにも從前普通の慣例に從へば陰に陽に種々樣々の手數を重ね時日を費して懇話内談、討論評議を盡し遂に之を能るみとに決しても尚ほ外面の體裁の爲めに願に依て免するの姿にするみと尋常の道なる可きに今回の一條は都て尋常の慣例外に出で政府の筋には疾く既に成案もありしみとならんなれども免職者に於ては事の當日に至るまで風の便りにも之を知らず突然の命旨に驚くのみならず其際云々の事情より自から辭職には非ずして官邊より免職を申付けられたるよし會社の社長と政府の官吏とは自から同じからざれども官吏の免職は總て命令の範圍内にありて自から處罰の意を含むみとなれば官撰の社長に免職とあれば必ず何か其人の職務上に落度あるみとなりと斷定せざるを得ず聞く所に據れば社長は曾て鐵道を敷くに專斷を以て其線路を變したるみとあり今度の免職は其專斷を咎めたるものなりとの說あれども假令ひ此線路變換を以て落度とするも事は既往に屬して今日の急務に非ず且つその事は法律上手續を踏まざるのみにして利益の點より云へば將來の業の便利の爲めにしたりとのみとなれば會社に於ては寧ろ其本色たる利を謀りしものと云ふ可し左れば今日急務の免職は單に線路云々の問題より生れたるに非ず此問題は一通り表面の沙汰にして内部の深き處に一種の内情なきを得ず兩三日來の新聞紙を見れば往々此件に關する記事少からずして其大意に北海道は大切なる開拓地にして殊に内地の資本を導き入るゝみと最第一の急要なれば同道の經濟は格別に安全にして世間の信を取るの工風なかる可らず然るに不幸なるは從前の弊風官民一般に流行して不取締の譏を免かれず彼の有名なる製糖會社の如き其一例にして實に見るに忍びざるの始末なり故に炭礦鐵道會社も其病を未發に豫防して旨く之を整理し以て社會一般の信用を固くするに非ざれば後日如何の變を見るやも計る可らず即ち是れ今日斷然の處置ありし所以なりと云ふ者あり其說の當否は姑く擱き内部の内情とは何れ此邊の意味なる可しと云はざるを得ず假令ひ其說の當否みの說に從へば炭礦鐵道會社は隨分危きものにてありしにもせよ内に病因を醸して危險の徴あるは爭ふ可らず殊に不治の難症に陷りたる製糖會社の先例に鑑みて攝養を命ぜらるゝ程の次第なれば其病根は決して輕からず即ち經濟不取締の素因ならんか、出納不正の隱伏症ならんか、會社中唯風氣を充たして實物に乏しきの惡徴ならんか、凡そ是等の病根は囊きの製糖會社中に醸して一旦の破裂遂に之を斃れしめたるものなれば今みれに憑りて用心云々とあれば炭鐵會社もまた恐る可き病會社にして然かも其療法の第一着手として社長の免職を急にし萬障を犯して瞬間をも猶豫せざりし處を見れば發症の期も餘程差迫りたるみとゝ推察せざるを得ず我輩は固より會社の内部を知らざれば之を評するに道なしと雖も遠くより傍觀したる處にて從前該會社には隨分情實的の役員もありて無用の俸給を費し却て少壯輩の運動を自由ならしめずして往々不平の聲なきに非ず竊に堪へ難く思ひしみとはれども會計上の一段に至りては當務役員の外に常議員あり又檢査役も偏へて何れも經濟社會に老練著實の紳士なれば金錢の事に付き大なる不都合を輕々に看過するみともなかる可し、製糖會社などの例を引て相對比較の物には非ざる可しと聊か安心したりしに今や則ち然らずとの風說は唯驚くに堪へたるのみ假令ひ此風說の半を信ならしめて不都合の痕跡もあらんには曾に社長その他重役等の落度のみならず監督取締の任に當る常議員檢査役の如きは特に體面を失ふものと云ふ可し但し今度社長を罷めて後は政府の筋にては時機を誤らず一先づ會社を洗濯して其内部に隱伏する所の諸病根を檢査するみとならん即ち死體解剖を以て實を證するものなれば會社は果して病に罹りてありしや否や、其病毒は何れの部分に危險を醸し居たりしやは一目瞭然以て察病の當否を明にするみと近日に在る可し察病果して當か、炭礦鐵道會社は顏色なし、或は當らずして誤診にてありしか、政府の筋の失體なり、世人の刮目して見んと欲する所のものなり

雜報

雜沢

○南太平洋濱洲旅行記（三）

日本移住民の檢査

一月二十四日午後ニューカレドニヤ嶋醫務總監キーフアー氏はチョーの醫師一名を從へ廣嶋丸船中に於て一我移住民の身體を檢査し終て本嶋移民條例に依り上陸の日より數へて三日間交通遮斷所に止め置くべき旨を命じたれどもチョーには交通遮斷所の設あらざれば直に上陸せしむる能はず遂にウルエーと云へる所に留め置くに決せしかば余は小野氏等と共に日本移住民上陸の前日ウルエーを檢分したり

ウルエー（Ourue）

ウルエーはチョーを北方に距る凡そ我一里程なる海岸の一塞村にして恰も等邊三角形狀をなし其底邊に當る所は海に濱し一邊は河流に沿ひ他の一邊は山麓に接す此地の中央に元とニッケル礦煉所として設置したる一大家屋あり今は半ば破損して僅に雨露を防ぐに過ぎず開く所に據れば曾てニッケル礦山を所有したる英人某はニッケル礦を歐洲に輸出して精煉するよりは寧ろ採掘地に於て精煉し純粹のニッケルを輸出せば其利益も大なるべしと信じ巨額の費用を吝まず遠く歐洲より器械を購求して一大家屋を建設し大なる釜六七個を据え付け盛に製造に從事したれども收支相償はず幾何もなくして失敗し遂にニッケル會社の手に歸するに至れりとぞ佛國ニッケル會社は礦物を採掘し直に之を歐洲に輸送するのみにてニューカレドニヤ嶋に於て精煉に着手せざれば此精練所を使用する必要も無く自然の破損に任かすのみ斯る有樣なればウルエーには住民と云ふべき程の人數も無く僅て英人に雇はれ居たる化學者が引續ひてニッケル會社の爲に雇はれ礦物の分析に從事せると巡査二名（佛人）が其家族と共に居住するに過ぎず而して我移住民を三日間滯留せしむべき場所として舊精煉所の近傍にある建物を用ひたり

土人

ニューカレドニヤ嶋土人の性質に關して二說あり甲は溫良從順なりと云ひ乙は兇猛殺伐を好むと云ふ余の本嶋に滯留するや僅に數日、廣く内地を跋涉するの時にあらざりしも實際目擊したる事實より判斷を下せば溫良なりと云ふも不可なかるべし一任彼等の本性は兇暴なりしにもせよ外國人に接するの度數を重ぬるに從ふて自から暴風の風を脫するものなれば現時チョー近傍には土人の兇猛なる者を見ず其だ溫和にして我より好意を以て彼に對すれば彼も亦喜んで我を迎ふ然れども彼も同じく此世界に生活する人間なれば文明人に比して銳鋭の差あるは多少喜怒の情を有するものなるが故若し無法にも彼の所有物を奪ひ取らんとするが如き事あらば彼は怒て之を拒ひの風あれども我より好意を以て向へば彼等は曾て見たる事もなき外人即日本人にも喜んで親むを見るべし其體格は概して偉大なる方にあらざれども日本人よりは少し長大にして頭髮短く縮れ其毛色は濃黑く又鬚髯の多きものと然らざるものあり肌膚は總て黑銅色にして面部より手足の先きに至る迄黑銅色を帶ぶ中には非常に黑き者の有り鼻は餘り高からざるも太き方なり前額稍や秀で眼は銳く口唇少し厚く眉、耳、齒等は別に異狀なし但し一般の風習と見え耳朶に穴を穿ち貝殼或は金屬類を挿みて裝飾品となす又鼻の兩孔間に穴を穿ちて兩々相通せしめ之に白き角の如きものを挿み其一端を鼻頭に現はすあり或は面部及び兩腕に青き入墨を爲す者あれども全身の色、黑き爲め容易に見分け難し服裝は一樣ならずチョーに住する土人は大抵ニッケル會社の爲に使役されば其服裝も見苦しからず古洋服を着シャツのみを着し股引を穿つものあり是なれども少しく内地に入れば裸體跣足葉等を以て僅に腰部を掩ふに過ぎず左の直躰を受け一層黑きを增し一種の光澤如し男女共に其容貌略ぼ同樣にしてらしめば之を識別し難かるべしと雖ども若し屋内に居れば帽や溫順の風あるのみならず餘り大小一ならざれども四方に木柱を打建き其他は椰子の葉又は木の枝等を以て布類を以て全身を掩ふを見受けたり なり屋内には敷物もなく唯地上に草を敷き人世の苦を知ざるに似たり尤もニッケル所謂無智遊惰の民にして飽食すれば地役せらるゝ土人は稍や勞働に堪ふるの料給十フラン乃至三四十フランの樹是等の中には金さへ得れば酒、煙草等を怠る者多きよし會社にては土人を礦役せず單に山上より下したる礦物を運夫の仕事に就かしむるに過ぎず彼等は一日に一度するを喜ひものゝ如く余等も屢々土人せられたりき土人の中品行善良にして の有り右の如く業務に從事して給料を等を食べしと雖ども内地の土人は負捕獲して之を食ひ又椰子、芭蕉の實、芋るのみ彼等の間には歷日なければ自己彼等は亦耕作の道を知らず只優遊自適み眞に太古蒙昧の時代の人民を今日に り彼等の言葉は一種異樣にして素より せざれども チョー近傍には英佛兩語の

○陸奥氏と岡崎代議士　和歌山縣選出代議士岡崎運兵衛、佐々木善右衛氏は今度其職を辭し陸奥宗光氏代りて るの計畫ある由なり

○陸奥宗光氏大坂滯在の模樣　此程紳士なる櫻密編問官陸奥宗光氏は去る二十五日大坂に出て同地中ノ嶋洗心館に投宿し山縣人及び同氏の書友大坂地方裁判所詰書記官、山下警部長等の訪問するみと二十六日は天王寺村夕陽丘にある亡父二十八日和歌山に赴きたるが出立の前り大坂に到り陸奥氏と會合したるよし

○嶋根縣代議士の會合　元獨立倶樂部撰出代議士岡崎運兵衛、佐々木善右衛門侯文書の四氏は今回の召集に先ち出十五日大坂中ノ嶋花屋方に於て會合せ する方針等を打合せ昨今打續ひて出京 の部分に危險を醸し居たりしや否や、其病毒は何れ代議士等は國家的鐵道擴張問題には發表せし實業協會涙の考案の如く山陽に分岐する事は尤も希望し居る由なり

○新組合の調査委員　東京組合代言人 する人々は去る廿五日に臨時總會を開 されたる彼の辯護士法案に關する評 調査委員十五名を撰びて之に同案の 書組合の方にも打合せ其結果を以て新